

令和3年度

「運営に関する計画」

大阪市立東陽中学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「全国学力・学習状況調査」の結果より（令和元年度）

○結果の概要

令和元年度の全国学力・学習状況調査の結果においては、国語は全国比より1.2P高く、数学は全国比1.2P高く。英語は全国比2.0P高い結果だった。また、平均無解答率では、全国平均より国語・数学・英語で、それぞれ1.7P、2.4P、1.4P低い結果であった。

令和2年度は、全国学力・学習状況調査を行うことが、新型コロナウイルス感染症のため実施することができなかった。また、令和2年度のチャレンジテストにおいて、1・2年生は、全ての教科で大阪府平均を下回った。

○分析から見えてきた課題

学習に関しては家庭学習に取り組む生徒と取り組まない生徒との差がある。令和2年度の校内アンケート調査で「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合が16.5pおり、放課後学習会等で個別の自主学習への支援が必要である。

また、授業者側の項目では「めあて・ねらい」の提示や話し合い等、授業内容やICT機器の活用による授業の工夫も進めており、令和2年度の校内アンケート調査では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」は昨年度結果より6.6P向上させることができた。

○今後の取組

落ち着いた環境で教育活動が学校全体で行われている。各教科で履修する内容を様々な学習方法や内容に関して、生徒にとって魅力ある授業づくりが行われている。

今後、学習に関しては予習復習を行う生徒の個人差が大きいことから、学習習慣定着のための支援が必要である。ICT等の更なる活用により生徒の興味関心を高め、一人ひとりの生徒へのきめ細かい指導や、入り込み等による習熟度別学習の充実が必要である。生徒が「主体的・対話的で深い学び」ができるように授業を進めていく。

学校元気アップ事業による放課後学習会の開催や、英語検定・漢字検定の継続等、学習に対する意欲の向上を図る取組みを進めていく。

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

○結果の概要

令和2年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」は、新型コロナウイルス感染症のため、実施しなかったが、校内で、実施することができた種目の調査結果では、男子は立幅跳び（164.8⇒176.5）、ハンドボール投げ（16.8⇒16.2）という結果で、立幅跳びが前年度の記録を上回った。女子は、50m走（8.48⇒8.91）、持久走（248.5⇒261.6）だった。引き続き、課題の種目の記録を向上できるようにしていく。

○今後取り組むべき課題

保健体育の授業では基礎的なトレーニングを十分取り入れたプログラムになっている。基礎体力の定着をと共に、体幹を鍛える運動を生徒自らが積極的に取り組んでいる。

さらに、生涯体育の視点で、多様な種目を授業に取り入れ、ルールを守り楽しみながら体育の授業が行われている。また、保健の授業では自分の身体を知ることや、健康と運動や、医学とスポーツ等の関係についても学習を深めている。今後も継続して基礎的な体力づくりを行い、生徒自らが心と体を鍛える取組みを推進していく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会】(学校園・家庭・地域)の実現】

○令和3年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかと言えば当てはまる）」と答える生徒の割合を平成28年度調査より向上させる。

○令和3年度の校内アンケートにおいて「防災・減災・安全に関する教育を実施し、安全確保や事故防止に努めている」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば当てはまる）」と答える保護者の割合を平成28年度調査より向上させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和3年度の全国学力・学習状況調査「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、平成28年度調査より1P以上減少させる。

○令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における各学年の合計得点を、平成28年度調査より1P以上向上させる。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

全市共通目標

- ① 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ② 令和3年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか。」の項目について「当てはまる（どちらかという当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。
- ③ 令和3年度末校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- ④ 令和3年度末校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ⑤ 令和3年度の校内アンケートにおいて「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度(62.7P)調査より向上させる。
- ⑥ 令和3年度の校内アンケートにおいて「学校は、防災・減災・安全に関する教育を行っている。」の項目について、保護者の肯定的な回答の割合を90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- ① 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ② 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1P以上減少させる。
- ③ 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2P以上増加させる。
- ④ 令和3年度の生徒アンケートで「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ⑤ 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、50m走、20mシャトルランの平均記録が令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果より向上させる。

学校園の年度目標

- ⑥ 令和3年度の生徒アンケートで「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、昨年度より減少させる。
- ⑦ 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点より向上させる。

3 本年度の自己評価結果総括

ルールを守ろうとする意識は高く、暴力行為を行う生徒もいないため、安心できる学校環境が構築できている。しかし、長期欠席や遅刻などの課題は多いため、生徒を継続的に指導・観察していく必要がある。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、急な休校や休業措置に対して、ICT を活用して、情報発信・伝達の方法に取り組んだ。オンライン授業など、慣れない授業形態に教師も生徒もしっかり取り組むことができた。

チャレンジテストの結果から、教科によっては、生徒間の学力差は少し縮まった。また、授業での話し合う活動や考えを深めたりする活動について、生徒アンケートの結果から目標を達成することができたが、生徒間の学力差が縮まっていない教科もあり、授業改善がもとめられる。また、自主学習習慣確立のためには、日ごろから目的意識を持って学習に取り組む姿勢の育成も必要である。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、急な行事変更等が続いている。コロナ禍においても行事が安心安全に取り組めるよう教育活動を計画していく。

大阪市立東陽中学校 令和３年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <p>① 令和３年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>② 令和３年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか。」の項目について「当てはまる（どちらかという当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。</p> <p>③ 令和３年度末校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>④ 令和３年度末校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>⑤ 令和３年度の校内アンケートにおいて「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度(62.7P)調査より向上させる。</p> <p>⑥ 令和３年度の校内アンケートにおいて「学校は、防災・減災・安全に関する教育を行っている。」の項目について、保護者の肯定的な回答の割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①⑤【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>いじめ・差別を許さない学校づくりを推進し、いじめアンケート調査等・生徒教育相談を定期的実施し、生徒理解を深め、学習環境を整える。</p> <hr/> <p>指標：いじめアンケート年３回実施、生徒教育相談年２回実施、Hyper-QU アンケートを実施。いじめの正体の学習を系統的に取組む。いじめアンケートの検証。今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を１００％にし、学習環境を整える。</p>	B
<p>取組内容①⑤【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>人権学習の年間計画を立て計画的実践し、人権に関する芸術鑑賞実施し、人権学習に取り組み、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を１００％にする。</p> <hr/> <p>指標：芸術鑑賞前後に人権学習を実施する。</p>	B
<p>取組内容②⑤【施策２：道徳心・社会性の育成】</p> <p>全ての教育活動を通して、あいさつがしっかりでき、相手の立場になって、考え行動できる人づくりを進める。年間３５時間の道徳の時間を有効に活用する。読み物資料等を活用し、道徳授業づくりを進める。</p> <hr/> <p>指標：学校アンケート「人の役に立とうと思いながら行動できる」９０％以上にする。「学校や地域であいさつをしている」９２％以上にする。道徳の時間、読み物資料を活用した授業等を行い、年次研修該当教員を中心に公開授業を行う。</p>	B
<p>取組内容②⑤【施策２ 道徳心・社会性の育成】</p> <p>校内のインクルーシブ教育の充実を図るため、支援体制を確立する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある生徒一人一人に「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、その計画に基づいて効果的な指導や適切な支援を行う。 ・特別支援サポーターを効果的に活用する。 	B
<p>取組内容③【施策３：地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>こども相談センター、警察機関、区役所(子育て支援室)やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携や相談。</p> <hr/> <p>指標：東成区学警連絡会等で生徒の情報交換を行い、指導の方向性を確認する。校内での暴力行為件数のゼロ件を継続する。</p>	B
<p>取組内容③【施策３：地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>読書文化の継承と更なる推進（朝読書、図書館、ブックトラックの活用、図書紹介、読書感想）を実施する。</p> <hr/> <p>指標：生徒アンケートの「読書は好きですか」を昨年度より上回る。</p>	B
<p>取組内容④【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>新たに不登校になる生徒を生じさせない、学級・学年集団づくりを進める。家庭との連携を深め、きめ細かい生徒指導を行う。</p> <hr/> <p>指標：生徒アンケートで「学校に行くのが楽しいですか」を前年度より向上させる。</p>	B

主任会・職員連絡会・運営の計画等での生徒情報共有。保護者・関係機関との連携。 ケース会議 不登校対策委員会（年３回）	
取組内容⑤【施策２：道徳心・社会性の育成】 社会体験（職業体験、ボランティア活動等）実施し、自分の将来を考えるよう指導する。また、進路選択への情報提供をきめ細かく行う。	B
指標 職業体験（２年生）、ボランティア清掃（１年生）を実施する。高校体験等へ積極的に参加させる。	
取組内容⑥【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】 年間指導計画にそって、防災・減災に関する授業（講話、説明、地域防災訓練への参加）。「警備及び防災の計画」「学校安全管理マニュアル」等に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。学校保健委員会での防災学習の継続。	B
指標：火災想定避難訓練（年１回）地震想定避難訓練（年１回）救急救命法（AEDを含む）の講話（年１回）を実施する。ふれあい地域防災交流会の実施。	
年間目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】	
<ul style="list-style-type: none">令和３度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、11月までで認知したいじめについては、100%解消させている。令和３年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか。」の項目について「当てはまる（どちらかという当てはまる）」と答える生徒の割合を 97.2%以上となり達成できた。令和３年度末校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数はいない。令和３年度末校内調査において、新たに不登校にならないよう取り組んでいる。令和３年度の校内アンケートにおいて「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度(62.7P)調査より 64.3P になり向上させることができた。令和３年度の校内アンケートにおいて「学校は、防災・減災・安全に関する教育を行っている。」の項目について、保護者の肯定的な回答の割合は 89.3%となり 90%以上にする目標を達成することができなかったが、継続して高い防災意識を持つことができた。	
【各取組内容の進捗状況】	
<ul style="list-style-type: none">学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合 100%を目指し、いじめアンケート 3 回、生徒教育相談 2 回、Hyper-QU アンケート 2 回、人権に関する芸術鑑賞実施し、人権学習に取り組んだ。道徳の時間、読み物資料を活用した授業等を行い、年次研修該当教員を中心に公開授業を行った。結果、生徒アンケート「人の役に立とうと思いつきながら行動できる」87.9%となり、90%以上にする目標は達成できなかったが、「学校や地域であいさつをしている」94.1%となり、92%以上の目標は達成することができた。校内のインクルーシブ教育の充実を図るため、障がいのある生徒一人一人に「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、その計画に基づいて効果的な指導や適切な支援を行っ	

た。

- ・校内での暴力行為件数のゼロ件を継続するため、こども相談センター、警察機関、区役所（子育て支援室）やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携や相談を行い、指導の方向性を確認しながら取り組んだ。

- ・読書文化の継承と更なる推進を行った結果、生徒アンケートの「読書は好きですか」を昨年度（71%→72.7%）より上回ることができた。

- ・新たに不登校になる生徒を生じさせない、学級・学年集団づくりを進める。家庭との連携を深め、きめ細かい生徒指導を行うため、主任会・職員連絡会・運営の計画等での生徒情報共有、保護者・関係機関との連携、ケース会議、不登校対策委員会に取り組んだ。結果として、生徒アンケートで「学校に行くのが楽しいですか」を前年度 87%→86%より向上させることができなかったが、高い水準を維持している。

- ・社会体験活動は、ふれあい公園清掃（1年生）実施した。2年生は、職業体験がコロナ禍のため実施できなかったが、職業や高校調べを通して、自分の将来を考えるよう指導した。また、進路選択への情報提供をきめ細かく行った。

- ・「警備及び防災の計画」「学校安全管理マニュアル」等に基づき、災害時に備えた訓練を実施した結果、生徒アンケート「防災・減災・安全に関する学習をする機会がある。」において、肯定的回答は 90%となり、防災・減災・安全の意識向上に取り組んだ。

今後の改善点

- ・学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合 100%を目指し、学習者用端末を使ってのいじめアンケートの実施や大阪市こどもサポートネットを活用していき、関係諸機関等とも連携を深め、主任会・職員連絡会・運営の計画等での生徒情報共有、保護者・関係機関との連携、ケース会議、不登校対策委員会に実施し、早期対応をできるよう取り組む。

- ・土曜授業での防災教育等を活用し、保護者・地域等と連携しながら生徒が主体的に取り組める防災・減災教育を継続して取り組む。

- ・中学卒業後の進路、自分の将来を具体的に考え、選択できる力を身につける取り組みを企画していきたい。また、平和学習や人権学習においても、さまざまな学習を通して、自分や周りの人の命・存在について考えを深めることができるよう取り組みを進める。

- ・不登校生に、少しでも学校とのつながり感じながら、学校生活や進路選択などのさまざまな事柄について前向きに考えることができるよう、家庭と連携を密に取れる体制を構築する。

大阪市立東陽中学校 令和３年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>① 令和３年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>② 令和３年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 P 以上減少させる。</p> <p>③ 令和３年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2P 以上増加させる。</p> <p>④ 令和３年度の生徒アンケートで「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>⑤ 令和３年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、50m 走、20m シャトルランの平均記録が令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果より向上させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>⑥ 令和３年度の生徒アンケートで「普段１日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、昨年度より減少させる。</p> <p>⑦ 令和３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点より向上させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①②③⑥【施策5：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上】</p> <p>「自主学習習慣の確立」をめざし、放課後や長期休業中などの生徒自主学習時間を設定し、生徒の自主学習を支援する。</p>	B
<p>指標：定期テスト前学年別放課後学習会。教員・学校元気アップ支援員等による学習サポート。年間各学年15回以上実施。</p>	
<p>取組内容①②③【施策6：国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>小中連携による英語教育の推進。それぞれの学年の英語力の向上をめざす。</p> <p>また、英検IBAを1、2年生全員受検させる。(1年生はテストD、2年生はテストC)</p>	B
<p>指標：1年生は5級以上(R2:94.4)、2年生は4級以上(R2:78.8)、3年生は3級以上(R2:未実施)の英語力を有する生徒の割合を1年生は5級以上90%以上、2年生は4級以上の割合を前年度以上、3年生は3級以上の生徒の割合を60%以上にする。</p>	
<p>取組内容①②③【施策6：国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>ICTを活用した有効な授業づくり</p>	A
<p>指標：授業等でのICT活用状況を増やし、校内アンケート「タブレット、ICT機器等を授業で活用していますか。」で、肯定的回答をする生徒の割合を60%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【施策5：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上】</p> <p>授業研究に伴う校内研修の充実：全教員が年1回授業公開を行い、授業力の向上に取り組む。校内研究授業週間を活用し、教員相互のスキルの向上を図る。</p>	A
<p>指標：校内アンケートで「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」について肯定意見を前年度より向上させる。</p>	
<p>取組内容⑥【施策5：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上】</p> <p>教科内での各学年の学習棚にある学習プリントを活用し、学習支援および家庭学習定着にむけた生徒の意識向上と保護者への啓発し、学習サポート体制の確立を図る。</p>	B
<p>指標：各学年の学習棚にある学習プリントを活用する。教科・学年が連携することによる学習サポート体制の確立を図る。</p>	
<p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>全ての学習の基盤となる言語能力等の育成を重視し、主体的・対話的で深い学びの視点から、学習・指導方法の普段の改善を図るための実践研究を行う。その中で、すべての授業において「本時(単元)の目標(めあて)」「本時(単元)のまとめ」をわかりやすく提示する。</p>	A
<p>指標</p> <p>・生徒アンケートを行い、「授業で、目標(めあて)やまとめが示されていますか」という項目において、肯定的な回答する割合を、80%以上にする。</p>	
<p>取組内容【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>基礎・基本の定着と充実を図る。基礎学力の定着のため、授業を大切にする意識を持たせ、わかりやすい授業をめざし、家庭学習の習慣もつけさせる。</p>	A
<p>指標</p> <p>・令和3年度の生徒アンケートにおいて「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、昨年度より減少させる。</p>	

<p>取組内容【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>ティームティーチングや習熟度別少人数授業(理科、社会を除く)を実施し、基礎・基本の定着と、発展的内容の指導の充実を図る。</p>			
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度のチャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 今年度末の生徒アンケートにおける「授業がよくわかる」と答える生徒の割合を80%以上にする。 英検 IBA テストにおいて英検3級レベル以上の割合を大阪市平均よりも上回る。 	B		
<p>取組内容 【施策8：小中一貫教育の充実】</p> <p>部活動体験、清掃活動、授業交流、小中教職員交流の推進、英語交流、管理職・教務主任との情報交流。</p>	B		
<p>指標：事業後アンケート等での検証。</p>			
年間目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の中学生チャレンジテストにおいては、3年生は対府平均比0.96となり、前年度0.95をより向上させることができた。また、2年生は対府平均比0.96となり、前年度0.93をより上させることができた。1年生は1.02となり、大阪府平均を超える結果であった。 令和3年度の中学生チャレンジテスト3年生においては、得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、18.8Pとなり前年度28.8Pより1P以上減少させることができた。 令和3年度の中学生チャレンジテスト3年生における得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、22.5Pとなり前年度25Pより増加できなかった。 令和3年度の中学生チャレンジテスト2年生においては、得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、23.3Pとなり前年度24.6Pより1P以上減少させることができた。 令和3年度の中学生チャレンジテスト2年生における得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、26.4Pとなり前年度22.1Pより大きく増加できた。 令和3年度の生徒アンケートで「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は87.2Pとなり、前年度78Pより向上させることができた。 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、50m走、20mシャトルランの平均記録が令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果よりすべての種目で向上させることはできなかったが、引き続き記録の向上ができるよう取り組んでいく。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【男子】 (R1) ⇒ (R3)</p> <p>50m走 8.01 ⇒ 7.8</p> <p>20Mシャトルラン 82.45 ⇒ 72.85</p> </td><td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【女子】 (R1) ⇒ (R3)</p> <p>50m走 8.53 ⇒ 8.9</p> <p>20Mシャトルラン 62.25 ⇒ 44.85</p> </td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の生徒アンケートで「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合は、12.7pとなり、昨年度17Pより減少させることができた。 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点は、93.7Pとな 		<p>【男子】 (R1) ⇒ (R3)</p> <p>50m走 8.01 ⇒ 7.8</p> <p>20Mシャトルラン 82.45 ⇒ 72.85</p>	<p>【女子】 (R1) ⇒ (R3)</p> <p>50m走 8.53 ⇒ 8.9</p> <p>20Mシャトルラン 62.25 ⇒ 44.85</p>
<p>【男子】 (R1) ⇒ (R3)</p> <p>50m走 8.01 ⇒ 7.8</p> <p>20Mシャトルラン 82.45 ⇒ 72.85</p>	<p>【女子】 (R1) ⇒ (R3)</p> <p>50m走 8.53 ⇒ 8.9</p> <p>20Mシャトルラン 62.25 ⇒ 44.85</p>		

り、令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の合計得点 94.1 を超えることはできなかったが、年間を通してさまざまな種目を取り入れ、基礎体力の定着だけでなく、運動やスポーツに対する関心や前向きに取り組む姿勢等を身につけながら、体力の向上に取り組んだ。

【各取組内容の進捗状況】

- ・定期テスト前各学年放課後学習会や朝学習会を実施した。また、教員・学校元気アップ支援員等による学習サポートを実施したが、感染拡大で実施できない期間もあったが、「自主学習習慣の確立」に取り組んだ。
- ・小中連携による英語教育の推進し、教員間の連携を行った。英検 IBA を 1、2 年は実施し、1 年生 99 名中、英検 4 級レベル以上が 27 名(27%)、5 級以上が 91 名(92%)だった。2 年生 120 名中、英検 3 級レベル以上が 42 名(35%)、4 級以上が 88 名(73.3%)だった。
- ・授業等での ICT 活用状況を増やし、校内アンケート「タブレット、I C T 機器等を授業で活用していますか。」で、肯定的回答をする生徒の割合を 96P となり目標を達成できた。
- ・全教員が年 1 回授業公開を行い、授業力の向上に取り組み、校内研究授業週間等を活用し、教員相互のスキルの向上に取り組んだ。結果、校内の生徒アンケートでは、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」について肯定的回答が 87.2P となり前年度より向上させることができた。
- ・各学年の学習棚にある学習プリントを活用し、教科・学年が連携することができた。
- ・すべての授業において「本時(単元)の目標(めあて)」「本時(単元)のまとめ」をわかりやすく提示するよう取り組んだ。結果として、生徒アンケートでは、「授業で、目標(めあて)やまとめが示されていますか」という項目において、肯定的な回答する割合 91.3P となり、目標を達成できた。
- ・基礎・基本の定着のため、ティームティーチングや習熟度別少人数授業（理科、社会を除く）を実施した。また、発展的内容の指導の充実にも取り組んだ。結果として、令和 3 年度の生徒アンケートにおいて「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、昨年度より減少させることができた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、部活動体験や授業交流などの小中教職員の連携の実施が難しい状況であったが、感染状況をみながら英語交流や授業交流など小中連携の取組みを進めた。

今後の改善点

- ・基礎学力の定着のため、効果的な習熟度授業の進め方や来年度に向けての評価の見直しに取り組んでいく。
- ・自主学習習慣確立のため、定期テスト前各学年放課後学習会や朝学習会を継続的に取り組んでいく。また、教員・学校元気アップ支援員等による学習サポートも継続的に実施していく。